

令和 5 年 7 月 12 日 メルボルン交流抄

「アデレード新人パイロット訓練生の旅立ち」

昨年(令和 4 年)6 月 28 日付の交流抄でご紹介しました JAL グループの J-AIR のアデレードパイロット訓練センターが自社養成パイロット訓練生を送り出しました。J-AIR では約 10 年のブランクを経ての自社養成パイロット訓練生だそうで、嬉しい限りです。単独飛行の技術を体得し、これから副操縦士になるべく、日本国内での訓練に入るそうです。アデレードから日本に向かわれる途中で、メルボルン(総領事公邸)に立ち寄られました。1 年前にお会いしてから技能面に限らず精神面でも大きく成長され、パイロットに必要なライセンスを得た自覚と自信に満ちあふれて、パイロットの証である胸章が輝いていました。



アデレードでの訓練は日本の国土交通省に承認され、パイロット養成所(航空従事者養成施設)としての指定を受けたそうです。つまり、このアデレードの養成センターでパイロット初期課程のライセンスを取得できるということになります。このような指定を受けた施設は JAL グループでは海外には米国のフェニックスと豪のアデレードの 2 箇所だけだそうです。日本から派遣されてきている 4 人の教官の方々と訓練生の並々ならぬ努力と熱意の賜だと思いません。おめでとうございます。

さて、この 1 年間訓練生は訓練に明け暮れてアデレードをしっかりと観光することができませんでした。そこで、南オーストラリア州政府のご配慮により、同観光局が 1 日ツアーを企画し、コアラといった豪州の動物との触れ合いや、ワイナリー訪問などの 1 日を満喫されました。

今度はプライベートでアデレードに戻ってきたいとの声も多く聞かれるなど、皆さんにとってアデレードは一生忘れられない思い出の場所になったと思います。ベティソン観光大臣のイニシアティブに心より感謝いたします。新人パイロットの皆さんが、日本国内を駆け巡ることになった時、アデレードの素晴らしさを語ってもらえれば、南オーストラリア州の人達も喜んでくれるでしょう。

もう一つ特筆すべきことは、1人の女性パイロットの存在です。彼女は一般民間企業で働いていましたが、女性の先輩パイロットの「パイロットには男性・女性の差はない」という言葉に促されてパイロットの道に進まれたそうです。外国に比べて日本ではまだまだ女性のパイロットは少ないそうです。再開後のアデレード訓練初の女性パイロットとして大いに活躍されることを願っています。そして、この彼女も含めたアデレードでの訓練生の皆さんがいつかまたアデレードに教官として戻られて後輩パイロットの指導にあたる日が来ることを願っています。

オーストラリアを発つ日の午後、公邸にて阿部孝博 J-AIR 会長をはじめ関係者と共に新人パイロットの旅立ちを祝して杯をあげました。そして、J-AIR のジェット機の模型に全員が署名。最後に J-AIR の許可を得て写真を掲載させていただきます。訓練生の皆さん、日本の明るい未来に向けて大空高く羽ばたいてください。いつかどこかで搭乗させていただくことを楽しみにしています。

